

平成21年度川根本町の予算総額 77億4,240万円

概略

川根本町議会3月定例会で、平成21年度の予算が議決されました。
一般会計および特別会計の予算総額は、77億4,240万円。前年度と比較して8億4,780万円の減額となりました。(△9・9割)

【一般会計総論】

平成21年度の本町一般会計予算は、53億1,400万円。前年度と比較して7億6,800万円(△12・6割)の減額予算となりました。平成20年度に北部地

域振興センターや町営住宅など、大きな事業が一段落したためです。

平成21年度は、福祉や環境対策など、ソフト事業の充実を図る「生活密着型」予算編成に取り組みました。安心して暮らすことができるまちづくりを進めます。

一般会計・歳入

歳入予算は、自主財源(町独自の財源)が36・7割。依存財源(国・県からの補助金など)が63・3割となっています。自主財源である町税は、13億727万円(8,377万円減)で、歳入総額の24・6割を占めます。財源不足を補うた



豊かな自然を守るための「環境対策」も本年度の柱の一つです



町営バス北部路線の運行開始

めなどに使う繰入金(基金取り崩し)が3億4,988万円(2億6,933万円減)で6・6割を占め、依存財源の地方交付税は21億5,000万円(40・5割)、国・県支出金は6億4,153万円(2億2,625万円減)で12・1割、町債が3億5,500万円(1億3,500万円減)で6・7割を占めています。大きな事業が一段落したため、補助金、町債が大きく減額になっています。また、厳しい経済情勢の影響で、町税も減額になっています。基金の繰り入れは、事業の目的に基づき、できるだけ補助金などの特定財源を確保。緊急時の対応や将来

を見ずえて、取り崩し額を極力抑えています。

一般会計・歳出(目的別)

放課後児童クラブの運営、拠点整備など子育て支援事業、外出支援サービス事業、在宅介護支援センターの充実を図る民生費は、歳出総額の19・2割を占めています。町営バス北部路線の試験運行、

北部地域振興センター周辺の整備事業、クリーンエネルギーの活用促進、環境対策、住民主役のまちづくりと地域コミュニティの活性化などを目的とした総務費は16・9割を占めています。住民の健康づくり、中学3年生まで対象を拡大した乳幼児医療助成、飲料水供給施設・水道施設整備などを目的とした衛生費は、11・3割を占めています。菌床シイタケ施設整備を始めとした農林業振興を図る

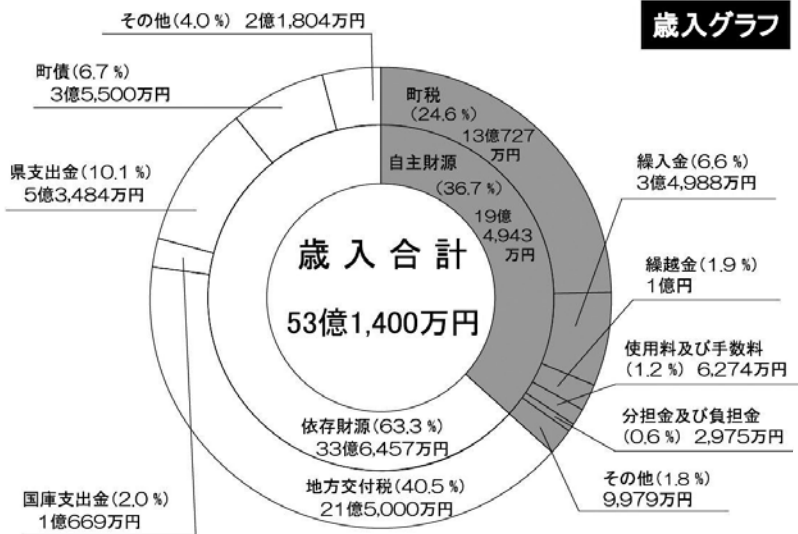
一般会計・歳出(性質別)

道路や建物を建設するための投資的経費が全体に占める割合は12・2割。前年度と比べて△48・7割となりました。北部地域振興センター本体工事、町営住宅整備事業が完了したためです。町道・林道の整備といった生活に直結した基盤整備については、引き続き計画に基づき、着実に実施していきます。

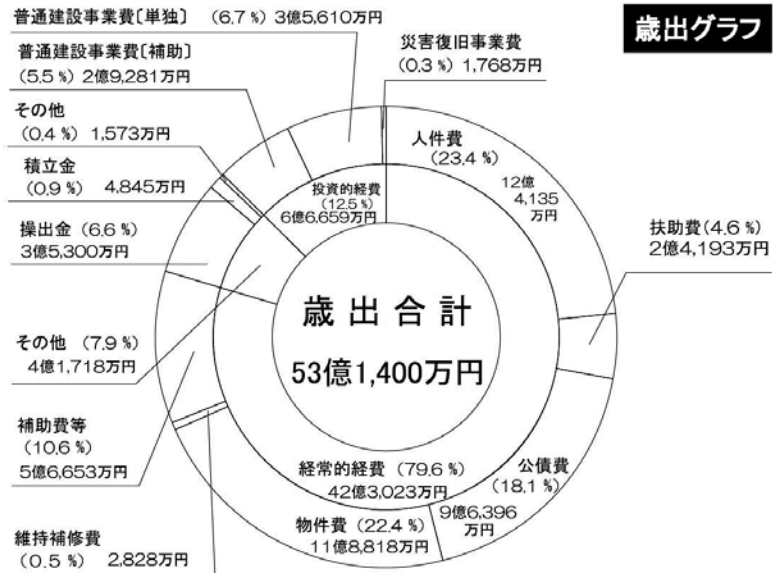
消防業務、ごみ処理業務の島田市への委託料などを含む物件費が22・4割。各種団体への補助金、組合への負担金などの補助費などは10・6割となりました。平成20年度に、補助金の効果的な活用を目指し、補助金や委託料を見直しました。特別会計への繰出金は6・6割です。

国民健康保険事業特別会計を始めとした7つの特別会計に支出されます。人件費・扶助費・公債費といった義務的経費は46・1割を占め、構成割合は増加しています。ただし人件費については、退職者の補充を抑えています。公債費は、過去の大きな償還が完了し、1億1,732万円の減額となっています。

歳入グラフ



歳出グラフ



※一般会計歳入歳出予算額を平成21年3月1日現在の人口8,776人で割った金額です

皆さんに納めていただく税金など		皆さんのために使う町のお金			
町民税	35,916円	議会費	7,764円	土木費	19,335円
固定資産税	106,650円	総務費	102,532円	消防費	31,802円
軽自動車税	2,279円	民生費	116,330円	教育費	59,397円
町たばこ税	3,259円	衛生費	68,288円	災害復旧費	2,014円
入湯税	855円	労働費	222円	公債費	109,840円
合計	148,959円	農林水産業費	61,822円	予備費	1,709円
		商工費	24,459円	合計	605,514円

平成21年度の予算がまとまりました。本年度はどんなことにお金を使い、どんなまちづくりを進めていくのか。予算のあらましを紹介します。

わたしたちの 予算 平成21年度